

正しく知る為に水を熟考する

福島県 郡山市立大槻中学校 二年 桑名 優空

水を考える時、私は幼少期に暮らしていた豊かな自然の故郷を思い出します。だからこそ、誰かの大切な故郷を大きく変えてしまい、復興のため必要だった水について皆にも考えて欲しいと思うのです。

私は、湖南町という美しい町で育ちました。あの頃は母に連れられ、猪苗代湖と磐梯山をよく眺めに行き、その度に心が澄んでいく感覚がしたものです。冬の凍える寒さを飛ぶ白鳥のV字、雪解け水が小川の縁のナズナやホトケノザを芽吹かせるのも、夏の湖水浴も青々と風なびく田園風景も、秋の五色の山々も脳裏に焼きついている大切な思い出です。

二〇二五年の夏、毎年楽しみだった蛍が見られませんでした。自慢だった家の前の小川が、河川改修工事でコンクリートに整備されたことと、猛暑が重なったことが原因ではないかと考えられます。同じ年、猪苗代湖はラムサール条約という国際的な約束に登録されました。これは、水辺の環境を守り、そこに生きる動植物を大切にしようとする約束。この条約がもつと早ければ、この小川の蛍も保全がされていたかもしれないと胸がズキリとしたのでした。湖南に帰れば当たり前に蛍が見られると思っていたので、環境一つで変わってしまうと改めて水について考えるきっかけとなった出来事でした。

そんな折、「処理水」という言葉をよく耳にするようになります。今までの私であれば心に留める言葉でなかったと思います。私が暮らす福島のことなのに、私たちには無関係だと感じていたからです。福島子ども未来塾という体験活動へ参加した時のことです。東日本大震災を経験していない私たちは、どこか他人事のように話を聞き始めたのですが、経済産業省の職員さんから、ALPS処理水について子どもたちの私たちでも分かるよう丁寧に教えていただく機会がありました。ALPS処理水は、あの震災・原発事故でできてしまった燃料デブリを冷やし続けなければならず、その中で生じた汚染水を、ALPSという装置でろ過を繰り返

し処理した水のことです。この処理水は、国の基準よりもWHOの世界基準よりも大幅に希釈され、安全に放出されています。近海の水産業に影響が出ないようにと、IAEAが監視をしてくれていると知りました。『処理水は危険な汚染水』とイメージしていた私はこれ以上福島を汚さないで欲しいと思っていました。事実を知ると見ていた景色が変わったのです。あの日、熱心に漁港で話をしてくださった漁師さんたちの笑顔と、皆で食べたホッキ貝やヒラメの味は忘れられません。

同じ福島の水。これから保全される環境の水と、海洋汚染だと危険視され、さまざまな場所で正しく理解を得られるよう情報を発信し続けている水。私はどちらも重要な水で、学び関わり続けたいと思いました。

猪苗代湖は、水質日本一に四年連続で輝いたことがあります。それは、流れ込む河川の酸性の水が湖水の汚れや窒素リンを湖底へ沈殿してくれる働きをしていたからだと調べて知りました。中性化した現在、地元の皆さんでヒシ等の水生植物を刈り取り、生活用水の流入を気を付けていることも。この猪苗代湖を思うように、双葉郡の人々や海を生業にしている人々にも、豊かな自然と親しんだ故郷の大切な記憶がある筈なのだと強く感じます。復興と廃炉の過程でどうしても必要だった放出という選択。目をそらしたり、誤った情報に惑わされず、逆に正しい情報だと過信せず、福島の水について関心を持って熟考していきたいです。これからの福島をつくるのは、私たち若い世代です。正しく知り伝えたいです。

あの夏、双葉町では実証栽培の為の田んぼでたくさん蛍が舞っていたと聞きました。故郷を思う心と未来を、前向きにする光です。